



## 地域・だいがく連携通信 —神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室  
〒657-8501  
神戸市灘区六甲台町1-1  
TEL : 078-803-5391  
FAX : 078-803-5389  
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

## 「防災×IT アイデアソン」の開催

### ～神戸大学×神戸市灘区役所×NTT データ

平成30年9月25日、本学社会科学系アカデミア館で、神戸大学×神戸市灘区役所×NTTデータの共催による「防災×IT アイデアソン」が開催されました。

アイデアソンとは、特定のテーマについてグループ単位でアイデアを出し合い、それをまとめていくワークショップです。今回は、NTTデータのもつ防災ソリューションや最新技術の知見を参考に、灘区での防災・減災の課題解決をめざし、学部・大学院を問わず集まった12人の学生達が3グループに分かれ、アイデアを競いました。

当日提示された灘区役所からの課題は、「災害の予兆・被災状況の把握」「災害時の移動手段」「災害備蓄の供給体制」の3つ。災害時に、被災者救援の最前線に立つ区役所・市役所の具体的な事例の説明を受けたあと、課題設定やソリューション技術の選択などアイデアをチーム内で議論し、その結果を1枚の模造紙を使ってプレゼンテーションを行いました。

灘区役所は、①ITの可能性の活用、②面的（地域的）拡大の可能性、③わくわくするか（もっと聞いてみたいか）、④アイデアの利点・難点の把握はどうかの4点から審査し、優秀チームが選ばれました。このチームには、記念品とともに、改めて灘区役所で、灘区長の前で、自分たちのアイデアを披露する権利が与えられました。

アイデアソン後の懇親会では、学生達とNTTデータ社員、灘区役所職員、大学教職員との間で活発な交流が行われました。参加学生からは、「色々なアイデアがでて、グループ内で積極的に議論ができた」「役所の仕事にも関心が高まった」などの感想が聞かれました。

神戸大学×神戸市灘区役所×NTTデータ  
防災×ITアイデアソン開催！

神戸大学、神戸市灘区役所、NTTデータの三者共催で、防災×ITアイデアソンを開催します。皆さんのアイデアで未来の防災の仕組を考えよう！

- ✓ 社会課題の解決に取り組むことで社会貢献を上げられる！
- ✓ NTTデータの防災ソリューションを知り、社会人と接点を持つ！
- ✓ ITのことを全く知らなくてもOK！学部学科を問いません！
- ✓ 社会に出てから必要な思考力、創造力を強化できる！

【日程】2018年9月25日（火）  
13時～17時 アイデアソン  
17時～18時半 懇親会

【場所】神戸大学六甲台第1キャンパス社会科学系  
アカデミア館5階501号室

【当日の流れ】

- ✓ 神戸市灘区役所から地域の防災についての課題を説明
- ✓ 神戸大学からCOC+を中心とした地域創生の取組について説明
- ✓ NTTデータからITおよび同社の防災ソリューションについて説明
- ✓ 学生のみならず防災ソリューションのアイデアを出し、プレゼン
- ✓ 神戸市灘区役所から審査結果発表

（優勝チームには区長賞状とプレゼン権を運営！）

【募集人数】40名 ※学年、学部は問いません

神戸大学のWEBサイトより、お申し込みをお願いします。  
申し込み受付締切日：8月31日（金）  
※先着順となりますのでお早めにお申し込みください！※

NTTデータは神戸大学（情報創生推進）のネーミングライツ・パートナーです



\* NTTデータは、主に社会科学系学生が利用する情報処理教室について、ネーミングライツ取得に関する協定を神戸大学と平成30年3月に締結しました。現代の課題を最新のテクノロジーで解決するためのワークショップ等、新たな人材育成支援も行うことになりました。

## 地域と学生をつなぐ～豊岡市での実践（学内公募地域連携事業から）



地域連携推進室の公募事業に今年度採択された「兵庫県豊岡市での地域活性化の産官学連携」事業について、経営学研究科の保田隆明先生にお話をお聞きしました。

### —先生のご研究や関心なども含め、今回公募された事業のきっかけなどからお教えてください。

私の研究領域は、entrepreneurship（起業）and regional development（地方創生）です。従来は、起業によって、ビッグなベンチャー企業が生まれ、どのように経済を活性化していくかを対象としていたのですが、なかなか日本では、ビッグなベンチャー企業は生まれません。でも地域には、様々な企業が地域にある。その企業の生産性、収益性を高めると、GDPは向上する。地域も元気になる。海外では、entrepreneurshipとregional developmentは、融合的な研究領域になりつつある。日本でもそういう流れになるだろうということで、研究領域として見えています。

そんな中で、学部生の指導を行い、起業・事業開発・新商品開発をやっているのですが、そこに地方・地域というキーワードを振りかけ、これらを通じて、地域の社会課題をどう解決していくかをテーマにしています。

学生達の関心は、多種多様ですが、なかなかユニークな領域なので、関心を持ってくれています。

### —これまでアントレプレナーといえば、新しいものの創生に目が向けられがちですが、自分達の足元を見直す、それ自体が発想の転換ですね。

現在、social entrepreneur、社会起業というのが世界的に注目を浴びてきています。社会課題、地域課題を解決することは、これまで、行政やNPOが行っていたのですが、収益を得ながら課題を解決する、あるいは解決しながら収益を得ることが出来るようになってきています。そうでないと、地域自体が自分たちの力で変えて行く原動力にならないと思います。

### —今回豊岡を取り上げられています。

豊岡にご縁があったということですが、豊岡市は自治体としては先駆的な取組をしていました。城崎温泉もあり、地域を商品化するというマーケティング

的発想を持っていました。市長と話をし、フィールドワークとして、豊岡市を商品化する提案をさせていただきますということで今回のプロジェクトとなりました。

現在、地方ほど人口減少の速度が早くなっています。人口収縮時代では、域外にものを売っていくか、域内にきてもらうか、経済を活性化する方法はありません。これまで、自治体はお客さんである住民の顧客満足度をどう高めていくかを考えていけばよかったのですが、域外に顧客を求める必要がでてきた。この場合の顧客は、域外でそのものを買ってくれる人、ここに来てくれる人のことです。マーケティングの理論に裏付けられた豊岡での経験は、汎用性もあり、他地域でも応用が可能と考えています。

### —具体的にはどのようなことを行われていますか。

役所の方とディスカッションし、一つは、コウノトリ米の拡販、もう一つは、地域の消費者行動の調査です。域内でお金をめぐるリサーチを学生と行う。購買行動の観察やアンケート調査により購買行動を確認し、ないものは、可能であればそれを豊岡で作っていく仕組みを考えようということです。ただ、これは非常に難しいので、今は、コウノトリ米の拡販を中心に、豊岡市の農林課とJA但馬と一緒にやっています。JA但馬からは現場でレクチャーを受けました。



### —学生達は、地域の現場に行くと、変わりますか。

全然違いますね。現場を見ないと課題がわからないし、課題を聞いて現場を見るとそういうことかと理解します。商品なので、生産現場を見ることが重要です。また、学生達には、5年後、10年後、20年後、自分の人生の中で、東京に住むことだけが人生でないということを、どこかのタイミングで知ってもらえば良いかなと思っています。

### —ありがとうございました。

## 地域健康測定会の開催

保健学研究科地域連携センターでは「須磨地域在住高齢者との関わり」事業の取り組みとして、毎年須磨区各地区での地域住民を対象とした健康測定会を開催しています。9月15日（土）には竜が台地域福祉センターで、近隣住民の方を対象に身体機能や認知機能の測定を行いました。昨年度までは大学院生が中心となって運営してきましたが、今年度からは理学療法学専攻の学部生もカリキュラムの一環として参加しています。学生達は地域住民の方と実際に関わり合うことで、病院で出会う“患者”としての人ではなく“生活者”としての人を知り、健康の不安や悩みを抱えながらも住み慣れた地域で自分らしく暮らすためにはどのような支援が必要であるのかを学びます。また、同日の測定会には、COC+事業の連携により、神戸市看護大学の学生さんにも参加いただきました。



健康測定会の様子

## 東播磨フィールドステーションの開設

東播磨地域は、全国一の約3万8千を超えるため池を有する兵庫県内でも、有数のため池が点在する地域です。平成28年度から、神戸大学、京都大学、兵庫県立大学の研究者が、兵庫県東播磨県民局とともに、地域固有の財産であるため池の水辺空間を活かした持続可能な地域づくりについて、調査・研究を進めてきました。それらのさらなる発展をめざして、平成30年6月30日、大学（神戸大学大学院農学研究科、京都大学大学院農学研究科、兵庫県立大学地域創造機構）と東播磨県民局との連携協定を締結し、地域課題を解決する研究・交流拠点、東播磨フィールドステーションを開所しました。

場所は、加古川市神野。JA兵庫南の前の空き店舗を、開所にあたって、学生達自らリノベーションワークショップを行いました。

現在施設には、25人程度のワークショップ&セミナースペースが設けられ、神戸大学農学研究科から常駐スタッフが配置されています。地域の多様な人々との協働を通して、地域のレジリエンス（Resilience；さまざまな環境・状況の変化に適応し、持続発展していく力）を高めていくため、環境・経済エコシステムの構築、地域人材の育成、地域ナレッジ（知識、知恵、情報など）の継承・創出を進めていきます。



開所式



学生達によるリノベーション

## 平成30年度 地域連携 公募事業

### \*地域連携事業（教職員対象）

部局名	申請事業名
国際文化学研究所	映像リテラシー教育に関する大学と芸術文化組織の地域連携
経済学研究科	医学研究科と経済学研究科の連携と「異業種連携」による地域創生事業
工学研究科	名谷団地再生・活用プロジェクト
国際文化学研究所	「神戸における戦災アーカイブコレクション」に関する学術的調査及び歴史展示の試み
経営学研究科	兵庫県豊岡市での地域活性化の産官学連携

### \*学生アクションプラン（学生対象）

団体等名	申請活動名
神戸学生森林整備隊	神戸市キーナの森における里山の資源利用の普及と継承
母子健康応援プロジェクト	母子にやさしい街づくり
神戸在宅呼吸ケア勉強会	神戸在宅呼吸ケア評価測定勉強会・測定会
神戸大学アメリカンフットボール	フラッグフットボールを通しての地域との交流

### \*平成30年度神戸大学・灘区まちづくりチャレンジ事業助成

申請団体	申請事業名
人間発達環境学研究所（教職員）	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト
国際文化学研究所（教職員）	ブックカフェやゲストハウスを活かした地域活性化
天文研究会（学生）	なだ星まつり
まちプロジェクト実行委員会（学生）	まちプロジェクト'18
灘区地域活動センター(N.A.C)（学生）	灘区内の災害復興住宅の集会場におけるふれあい喫茶の運営や戸別訪問活動

### 活動報告（平成30年3月～9月）

月	日	対象	内容
3月	5日	大学	神戸大学・灘区まちづくりチャレンジ事業公募開始
	7日	大学	地域連携事業・学生地域アクションプラン公募開始
	17日	農学	農の学びの場 Rural Learning Network 第25回セミナー
	26日	大学	平成29年度神戸大学地域連携活動報告書を発行
	30日	保健	『子育て支援と高齢者福祉』（シリーズ「地域づくりの基礎知識」2）発行
4月	1日	大学	地域連携推進室室長 内田一徳理事・副学長兼務
	16日	都市安	都市安全研究センター 第232回オープンゼミナール（第233回5/19, 第234回6/16, 第235回7/14, 第236回8/18, 第237回9/15）
5月	16日	大学	平成30年度第1回地域連携推進室会議
6月	8日	都市安	見て歩き会 the Extention 開催
	13日	保健	須磨区、5大学情報交換会
	30日	農学	東播磨フィールドステーション開所式
7月	2日	農学	六甲フォーラム／地域連携セミナー開催
	28日	都市安	見て歩き会／SEEK OUT 開催
8月	1日	大学	地域連携推進室室長 田中丸治哉農学研究科教授
	30日	保健	認知症予防事業（～11月29日までの毎週木曜日）
9月	5日	大学	第4回ひょうご神戸プラットフォーム協議会
	15日	保健	地域健康測定会
	25日	大学	神戸大学×神戸市灘区役所×NTT データ「防災×ITアイデアソン」